

令和7年2月19日

久留米大学病院医療安全監査委員会

委員長 秋吉 浩三郎



○令和6年度 第2回久留米大学病院医療安全監査委員会講評

改正医療法施行規則により医療安全管理体制整備の確認のために、令和7年1月29日に第2回久留米大学病院医療安全監査委員会を開催しました。

監査は事前に通知した監査項目に沿って行いました。監査結果を以下に講評します。

監査事項

1. 研修医を対象とした医療安全教育について

- ・開催頻度、開催時間、研修内容、効果等、詳細を教えてください。

(講評)

研修医を対象とした医療安全教育について、新採用オリエンテーションでは医療安全に関わる多くのテーマで講演を実施され、月に1回の研修医会を開催し医療安全教育に積極的に取り組まれていることを確認しました。特に、医療安全管理対策委員会に、2年次研修医が1名参加することを必須としており、実際の医療安全活動がどのように行われているかを学ぶことができ、大変よい取り組みです。また、クリニカルクラークシップにおいても、医療安全管理部での実習期間を設けており、卒前・卒後のシームレスな医療安全教育に取り組まれていることも確認しました。

現時点では、研修医を含めた医師のインシデントレポート件数は少ないとのことですので、上記の取り組みがインシデントレポートの報告数増加につながることを期待します。

2. Team STEPPS に対する貴院の取り組みについて

- ・Team STEPPS 研修の開催回数や対象、開催時間、研修内容、効果等、詳細を教えてください。また、令和4年度に貴院の医療安全推進委員会で取り組まれた「Team STEPPS の推進・教育」の効果が、今現在どのように継続・発現されているかも合わせてご教示ください。

(講評)

Team STEPPS の定着に向け、2019年度より段階的に取り組まれていることがわかりました。まず、Team STEPPS の理念や考え方を浸透させるための研修会開催、チェックバックや

ハンドオフなど、コミュニケーションツールの活用、Team STEPPS の視点に基づいたインシデント分析、多職種による Team STEPPS カンファレンス開催など、Team STEPPS を現場に定着させるための様々な取り組みをご教授いただきました。また、コミュニケーションエラー件数をモニタリングし、Team STEPPS の効果判定とするなど、適切に PDCA を回していることも確認できました。

安全な医療を提供する上で、今や Team STEPPS の実践は必要不可欠なものと認知される一方で、臨床現場に根付かせることは非常に困難ともいわれています。そのような中で貴院の継続的な取り組みはとても素晴らしく高く評価できると思います。

今後当院でも参考にさせていただきます。

3. 医療安全文化調査について

- ・医療安全文化調査を実施されていますか。実施されていたら、対象職員、実施内容、および結果をどのように活用されているかご教示下さい。また、安全文化調査の結果から改善につながった事例がありましたら教えてください。

(講評)

日本医療機能評価機構の医療安全文化調査を令和5年度から導入され、令和6年2月～3月にかけて第1回目の調査を全職員対象に実施、回答率は約74%であり、文化調査を実施されていることを確認いたしました。しかしながら、調査結果の分析、フィードバックはまだ実施できていないとのことでしたので、早期に対応し、貴院の医療安全文化の醸成に繋がっていかれますようご検討下さい。

4. 医療機器管理について

- ・診療科が独自に購入した機器についてどのように管理を行っていますか。定期点検や修理費用についての予算の有無などご教示ください。

(講評)

病院機能評価で医療機器管理機能を適切に発揮している項目について診療科等で独自に購入した医療機器に関して、所在、実態等の把握とこれらの医療機器等を含めた医療機器の一元管理の実施が求められています。久留米大学病院は財務部用度課が保有している医療機器台帳について実態調査と財務部用度課、臨床工学センターの台帳を突合し、一元化した医療機器のデータベース作成を始めたところであり、大変苦渋している状況であることを確認しました。今後の課題は、病院購入でない機器の機器登録や購入から廃棄までのプロセスの改善、修理やメンテナンス費用について、どのように対応するかご検討ください。

以 上